

若手研究者コラムリレー

日下 知明（くさか ともあき）



プロフィール

鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系 講師
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 体育・スポーツ政策
岡山県出身

2012年 筑波大学体育専門学群卒業
2014年 筑波大学大学院人間総合科学研究科(博士前期課程)修了
2022年 筑波大学大学院人間総合科学研究科(博士後期課程)単位取得満期退学

E-mail: t-kusaka@nifs-k.ac.jp



夏の桜島

わたしの研究

地方スポーツ政策における 官民パートナーシップ

私がこれまでに取り組んできたテーマは、地方自治体レベルのスポーツ政策における官民パートナーシップ(PPP)です。具体的な対象として日本における地方自治体とプロサッカークラブの関係をとり上げ、2者間にどのようなPPPが形成されているのかを明らかにすることに取り組んできました。

この研究の出発点は、大学3年生時にあるニュースを目にしたことでした。そのニュースを見た際に抱いた「公平性を原理とする政府部門が、その行動原理とは矛盾するような行動(民間企業との間に密接な関係を築くという行動)を起こす/起こせるのはなぜなのか」という疑問をどのように消化すればよいかよくわからず、うろうろしながら多くの寄り道をして、何とか上記のテーマに辿り着きました。

政策におけるPPPにおいては、公共的利益の実現に資する(ことを期待している)からこそ政府部門が特定の民間組織・団体と密接な関係を築き上げていると思われます。一方で、政府部門が特定の組織・団体と密接な関係を結ぶにあたって直面せざるを得ない課題も存在します。このような性質を有する政策におけるPPPを様々な側面から理解することを目指してきました。

政策は、多元的な価値・規範を扱わざるを得ず、すっきりとしないことを扱わなければならないことが多くあります。今後は、政策の有するこのような性質を考慮したテーマにも挑戦できればと考えています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

日下知明. 地方自治体とJリーグクラブのスポーツ施設をめぐる政策ネットワークの特質に関する研究. 体育・スポーツ政策研究 26(1): 1-28, 2017.

必読

なんでも帳

現在の勤務校に着任してから様々な分野の先生方とお話をする機会に恵まれました。ここでは、他分野の先生方との交流を通じて教えていただいた多くの研究の中から、私が刺激を受けた1つの研究について述べてさせていただきます。

紹介させていただく研究は、広田照幸(1997)『陸軍将校の教育社会史: 立身出世と天皇制』です。広田氏の博士論文がもとになっているこの研究で扱われているのは「陸軍将校の選抜と社会化」であり、私の専門分野からは遠いものです。しかし、あらゆる研究に通じるであろう重要な指摘が様々な箇所に書かれており、多くの刺激を受けました。なかでも、最も刺激を受けた部分は「そもそもなぜこのような研究をしたのか?」という著者自身の問題関心について述べられている箇所でした(同書のあとがきに述べられています)。

研究の前進に関わる要素は多様であり、問題関心はその要素の1つにすぎません。また、問題関心がなくても研究はできる(論文を書ける)かもしれません。一方で、数あるテーマや問いの中から特定のものを選んでいることは事実ですから、「なぜ私はある特定のテーマや問いに取り組むのか?」について考えることも必要だと思います。そして、このようなことを考えることは、結局のところ「自分は何を考えたいのか?」を自身に問いかけることを意味すると思います。「なぜ私がこのテーマや問いに取り組むのか?」について、自身の言葉でどのように説明できるだろうか?」同書を通じて、このような問いを自身に投げかけることの重要性に気づかせてもらいました。

日本体育・スポーツ・健康学会
若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました! → メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com

